

# 生涯学習 標準カリキュラム(案)

プログラム名	コース名	No.	科目名	一般目標	項目	時間(分)
卒前履修		0	公益社団法人 日本義肢装具士協会(JAPO)の紹介	JAPOの経緯, 目的, 活動の理解 専門職及び職能団体の役割の自覚 *学生会員→正会員の移行促進プログラム	概要(沿革, 事業, 組織, 会勢, ほか) 公益法人の役割 生涯学習と専門士制度の展望	60
新人プログラム	合計260分(4h20m) 200分(Web)+60分(対面) ・対象: 資格取得後5年以内のPO ・受講料: 正会員無料・非会員¥17,000.-	1	義肢装具の歴史	義肢装具(士)の歴史, 変遷の理解	義肢装具世界史, 義肢装具の日本史, 貢献者, 他	10+10
		2	義肢装具士関係法規	義肢装具士業務に関する法規, 制度の理解	義肢装具士法, 義肢装具士業務指針(2020改訂版)	15+15
		3	職業倫理	義肢装具士に求められる倫理の理解	医の倫理, 義肢装具士の職業倫理	10+10+10
		4	義肢装具等補装具費の支給制度	義肢装具の支給制度の理解	治療用 更生用	60 60
		5	対人援助技術(基礎・ワークショップ):対面	社会人として必要な対人援助技術の理解と習得	対人援助技術: 接遇マナー	60
臨床基礎コース	合計:405分(6h45m) 全てWeb ・受講料:¥6,000.-(正会員)	6	多職種連携Ⅰ:概論	義肢装具士に必要な多職種連携の理解	概論:IPWの概念と必要性	15
		7	多職種連携Ⅱ:分野別	義肢装具士に必要な多職種連携の理解	専門職種間連携における義肢装具士の役割と責任(1) 医療分野	30
					専門職種間連携における義肢装具士の役割と責任(2) 福祉分野	30
					専門職種間連携における義肢装具士の役割と責任(3) 在宅分野	30
		8	リスク・マネジメントⅠ:概論	義肢装具士に必要な安全管理の理解	医療事故/医療過誤/インシデント/ヒヤリハット	15
					PL法	15
					義肢装具関連事故の現状	15
		9	リスクマネジメントⅡ:防止対策	義肢装具士に必要な安全管理の理解	医療事故防止対策	15
					感染予防対策	15
					転倒予防対策	15
		10	教育手法	後進指導が行える(臨床実習生を含む)	教育手法:教育基礎理論 教育手法:コーチングに基づく後進指導	30 60
11	対人援助技術(医療接遇):対面	義肢装具士に必要な対人援助技術の理解	ユーザーの権利, 合理的配慮など, POに必要な対人援助技術	60		
一般プログラム		12	支援機器の基礎知識	義肢装具士に必要な支援機器の基礎知識の獲得	福祉用具	15
					歩行支援ロボット	15
					福祉住環境	15
					車椅子・シーティング	15
研究基礎コース(仮称)	合計:690分(11h30m) 630分(Web)+60分(対面) ・受講料:¥10,000.-(正会員)	13	クリニカル・リーズニング	義肢装具士に必要な臨床推論の思考の獲得	概念, 用語と定義	15
					ワークショップ:対面	60
		14	症例報告	経験した症例について: ・臨床工程を客観的に記述できる ・義肢/装具の効果を科学的に報告できる	症例報告の意義, 目的	15
					症例報告に求められる要素(PICO, 他)	60
					発表の仕方 報告の仕方	45 45
		15	研究:読解編	他者の研究発表/報告が理解できる	概論(研究の必要性, エビデンスレベル, 倫理, 研究の種類, 他)	60
					研究倫理	30
統計学Ⅰ(解釈, データの見方, 他)	60					
16	研究:実践準備編	自身で研究を遂行する際の前提知識の理解	研究計画と実践(文献検索を含む)	60		
			義肢装具関連研究手法の紹介(動作文責・アウトカム評価etc)	30		
			動作分析	30		
			アウトカム評価	30		
			アンケート調査	30		
			統計学Ⅱ(研究モデル毎の適応, 他)	60		
科学論文の書き方	60					